

生徒・進路指導論

教職課程科目／2単位／T授業

担当教員 長友 道彦

■使用テキスト

楠本恭久(編著)『生徒指導論 12講』福村出版

◆参考テキスト

1. 『中学校学習指導要領』
2. 『高等学校学習指導要領』
3. 『生徒指導の手引』
4. 『学校における教育相談の考え方・進め方(中・高編)』
5. 『生徒指導上の諸問題の現状と文部科学省の施策について』
(以上、いずれも文部科学省編・財務省印刷局刊)
6. 坂本昇一『生徒指導の機能と方法』文教書院

講義概要・一般目標

本科目は、「教職に関する科目」の一科目である。従って学習者は、学習の過程において、将来中学校または高等学校の教壇に立つということを、常に念頭において学習してほしい。

学習内容は、まず「生徒指導とはなにか」に始まり、それを教育の現場で実践していく上での基本的かつ必須不可欠な理論を習得することを目的として構成されている。

何事にせよ、優れた実践は確固たる理論の理解の上こそ成り立つ。そのことを肝に銘じて各項目毎に真摯に学習に取り組んでいただきたい。上記、**参考テキスト 6**は、今後の学習の随所で役に立つ優れた参考書である。

以下に、テキストの各章毎のポイントを学習の進め方と併せて述べたい。

到達目標

- 1) 生徒指導とは、生活指導、学習指導、進路指導等、生徒に関するすべてであることを理解し、これらのことについて説明できる

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第1章 生徒指導の意義と役割

この章では、生徒指導の目標と原理を学ぶことがポイントである。生徒指導そのものは、教育課程の中には位置付けられてはいないが、教育課程との関連を否定した生徒指導はありえない。その意味でテキストの学習と併せて中・高の「学習指導要領」（上記、**参考テキスト 1、2**）を入手し、特にその総則編を一読することが望ましい。

第2章 適応と発達

この章以降で、生徒指導を実践する上での諸々の判断をする際の土台となる生徒指導の理論を学ぶ。生徒指導の目的の一つは、生徒の周囲への好ましい適応能力獲得への指導援助である。適応は、生徒が個人的に正常な発達を果たしてこそ獲得できる。適応の意味、発達の意義を学び理解することがこの章の目的である。

第3章 生徒理解の方法

教育現場に「生徒指導は生徒理解に始まり生徒理解に終わる」という言葉がある。つまり生徒指導は、生徒一人ひとりの十分な理解なしには成り立たない、ということである。そのための方法、そしてそれを推進する際の留意点を学習する。

第4章 学校の生徒指導

学校における生徒指導の具体的な場面と、いわゆる校務分掌組織における生徒指導の位置・立場・役割等について学習する。上記、**参考テキスト 3**を併せて学習することが望ましい。

第5章 懲戒と体罰

本テキストにおいて、本章を設定した理由は、テキスト巻末「参考資料」にある「学校教育法」第11条にある。懲戒と体罰の意味をあらゆる角度から検討・理解し、改めて生徒指導の原点に立ち返る姿勢が望まれる。

第6章 問題行動

まず、問題行動の「問題」の基準をどう把握すべきかに始まり、その問題行動を「法」との関係を含めてどう分類・整理すべきか、そしてそれぞれの問題行動の違いをはっきりと認識することが肝要である。更に、それぞれの問題をかかえた生徒への対応の理論を学習する。

教育の現場に身をおいた場合、その日からでもその対応を迫られるかも知れない喫緊かつ重要な課題である。心して学習しよう。

第7章 いじめ・不登校

第8章 校内暴力と家庭内暴力

いじめ・不登校・校内（家庭内）暴力は、現今、学校における「三大問題行動」と呼ばれる。それらの問題行動が生じる背景・特徴等をつぶさに学習すると同時に、その予防策並びにやむなくそうした事象に直面した際の、学校としてのそして教師としての対応策を学ぶ。ケースにより表出する形態が一つひとつ異なるだけに非常に難しい問題であるが、たゆみなく研修に励む姿勢が必要とされる。

第9章 家庭の生活指導

あらゆる生徒指導の場で必要とされるのが学校と家庭との連携指導である。そのためには、家庭とは何か、家庭のあり方、家庭における父親・母親それぞれの役割り、更に最近多く見られる片親家庭における父親または母親の役割りといったことを、しっかり把握することが先決である。その上で、実際の個々の家庭についての理解を深める姿勢が必要であろう。

第 10 章 教育相談と進路指導

1 節 教育相談

生徒指導の場での、教育相談の意義と役割、その対象、更に教育相談を実施する上での留意点等、教育相談全般の基礎事項を学ぶ。次章のカウンセリングの具体的手法に通ずる入り口としてしっかり学習しよう。(参考テキスト 4 を是非参照したい。)

2 節 進路指導

進路指導をいわゆる「出口指導」に終わらせないために、正しい進路指導の意義を理解し、その理論にそった指導のあり方を学ぶのが、この節の目的である。具体的にどう進めたらよいか、進めるための指導計画はどう策定したらよいかを、生徒の発達状況に応じて考えねばならない。学習に当たり、自分自身の中・高校時代を振り返ってみることも意味なしとしない。(参考テキスト 1、2 の進路指導に関する部分を熟読・玩味すべきである。)

第 11 章 カウンセリング

前章 1 節の教育相談の基礎理論に基づき、具体的なスクールカウンセリング(教育カウンセリング)の手法を学ぶ。そもそもカウンセリングの技術というものは、実際の場合数を踏むことにより向上が期待できるが、実行するには相応の理論や予備知識が欠かせない。特に 3 節に上げた「クライエント中心療法」(ロジャーズ)は、提唱されて久しいがその理論・手法は、未だにカウンセリングの教科書的位置を占める。

第 12 章 教職科目としての生徒指導論

この章では「学習指導要領」の趣旨に触れながら生徒指導の核心に迫っている。いわば教師に対する具体的な生徒指導論といえる。また、教員採用試験にも言及しているので大いに参考に供せられたい。(参考テキスト 1、2 参照)